

第 36 回医療画像情報研究会

当院の電子カルテ更新について

岐阜市民病院 中央放射線部 小澤将直

【背景】

2024 年 1 月より富士通社製「電子カルテ HOPE LifeMark-HX」の稼働をスタートさせた。更新時の大まかな流れ、新たな取り組みを紹介する。

【カルテ更新の流れ】

メンバー構成をリーダー、サブリーダー、放射線部に関わるシステム担当者 3 名、計 5 名とした。システム移行前は情報の収集、仕様書の作成、システム更新期日は紙伝票の運用案内、移行後は各システムの動作チェック、仕様書の検収が主な業務であった。

【新たな取り組み】

電子カルテ更新前は他院紹介用 CD 出力をアレイ株式会社製 AOC 1 台、出力装置 1 台で運用し、放射線部で管理していた。出力件数は年々増加傾向にあり、出力時間の延長、問い合わせ件数の増加など問題が出てきた。そのため、CD 出力システムを変更した。AOC を入院、外来、救急用 3 台に増設、出力装置を 5 台に増設し、大量の CD 出力依頼が入った場合などに自動的にもう一つの出力装置に割り振るなど設定を行うことで、出力時間延長の解消に努めた。また、出力完了時、AOC からの出力記録を電子カルテへ送信することで履歴が残るよう変更を行った。出力状況の確認が容易になり、CD に関する問い合わせ件数が減少した。

【考察】

更新メンバーに各部門システム担当者を付けることでより詳細な意見の吸い上げができた。移行期間の放射線検査は紙伝票での運用であったが、記入漏れ、文字が読めない等の問題が発生した。簡素化する、PC で入力できるようシートを作成するなど、紙伝票の内容、運用面での改善余地があると考ええる。CD 出力履歴の電子カルテ反映により当初の問題は解消されたのではと考える。履歴内容は現状 CD 届け先、出力時間、出力者であるが、出力内容の情報など追加できないか検討したい。

【結語】

電子カルテ更新の大まかな流れ、新たな取り組みについて紹介した。